



Title	<図書紹介>モダン・デザインと民芸の思潮を基に仕事着をデザインした桑沢洋子の活動 常見美紀子『桑沢洋子とモダン・デザイン運動』桑沢学園 2007年
Author(s)	常見, 美紀子
Citation	デザイン理論. 2008, 53, p. 132-133
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53549">https://doi.org/10.18910/53549</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

モダン・デザインと民芸の思潮を基に仕事着をデザインした桑沢洋子の活動

常見美紀子 『桑沢洋子とモダン・デザイン運動』 桑沢学園 2007年

常見美紀子／京都女子大学

## 概 略

本書は、桑沢デザイン研究所、東京造形大学を設立したファッショントレーナー、桑沢洋子（1910-1977）のデザイン活動とその作品について、デザイン史の視点から記述したものである。「ファッショントレーナー」と聞けば、おそらく多くの人は、パリ・オートクチュール・コレクションなどでセンセーション的な作品を発表するデザイナーを思い浮かべるであろうからである。その意味では桑沢はまったく反対の立場をとりつけた。なぜなら、彼女が専らデザインしたのは「仕事着」であったからである。

このように桑沢は他のファッショントレーナーと異なり、独自のデザイン活動を展開した。その理由のひとつは、戦前に「構成教育」を受けたことがあげられる。近代日本のデザイン運動が始まった頃、 Bauhaus 流の造形教育、すなわち「構成教育」を行い、たいへん注目されていたのが「銀座・新建築工藝學院」であった。この学院は建築家川喜田煉七郎が主宰した。桑沢は女子美術専門学校洋画科を卒業後、1933年に入学した。在学中は『アイシーオール』『構成教育大系』の編集の手伝いや、『住宅』の記者を通して、 Bauhaus や近代デザイン・建築の思潮を学んだ。卒業後には、『婦人画報』の服飾担当の編集者となった。その後、伊東茂平に師事し、ファッショントレーナーに転身する。1954年に「生活」に根差した日本独自のファッショントレーナーを創出できる構成教育を基盤としたデザイン教育を目指し「桑沢デザイン研究所」を創立した。勝見勝、剣持勇、清家清らを講

師とした研究所は「日本版の Bauhaus」と評され、デザイン界から期待された。さらに1966年には、東京造形大学を創設し、時代にあった大学レベルのデザイン教育を行った。

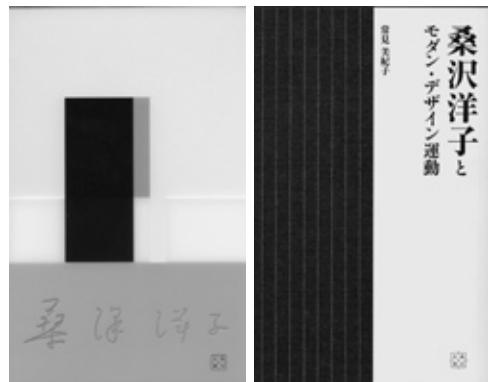
デザイン教育者として活動する一方、桑沢は、生活をよりよくするためにさまざまな分野のデザイナーと1950年代のデザイン運動の一翼を担った。

彼女を特徴づけるふたつめのものが、「生活重視」の思想である。その考えは近代デザインの思潮と同時に、日常的な暮らしの中で使われてきた手仕事の日用品の中に「用の美」を見出さうとした「民芸」との出会いによって育まれた。1949年、女子美術大学に工芸科が開設され、柳宗悦を筆頭に芹沢銘介、柳悦孝（柳宗悦の甥）らが赴任した。翌年、桑沢も服飾科の講師として招かれた。その関係で民芸の人々との交流が始まる。その具体的な活動が「合成纖維ビニロンの開発」であった。桑沢は、倉敷レイヨン株式会社社長の大原總一郎（1909-1968）および柳悦孝と、「日本人の生活に貢献する合纖維ビニロンの改良とデザインの開発」という共通の課題のもとに、結束を固めていく。その活動を通して桑沢は、民芸の思想に惹かれ、影響を受けていった。同じ頃に始まった民藝運動とモダンデザイン運動は「日常品」に関わる具体的な活動であったにもかかわらず、交叉することはまれであった。しかしながら、桑沢は、社会派デザイナーとしてファッショントレーナーを単に美の問題としてではなく、「生活重視」の民芸とモダン・デザインの思潮を融合して、作業着をデザインした。それは彼女が「デザイ

ンとは何か」という問題を問い合わせたからに他ならなかった。

なお、本書の構成は下記のとおりである。

第1章	自己形成期	デザイン教育
	幼少期	高橋正人による「構成教育」
	女子美術学校入学	石元泰博の果たした役割
	新建築工芸学院入学	構成教育を基盤とした
	— バウハウスとの出会い	ドレスデザイン教育
第2章	編集者としての活動	構成教育の目的
	『住宅』の取材記者	桑沢の初期のデザイン教育観
	『婦人画報』の編集記者	ファッション・デザインの
	「改良服」論争 のゆくえ	三つの特質
	デザイナー・ネットワークの形成	基本概念としての「量感」
第3章	デザイナーとしての活動	感覚表現の四要素
	仕事着のデザイン	先駆的なイメージ表現
	野良着の改良運動	「美的な要素」と「機能的な要素」
	ビニロンと民芸運動	第6章 桑沢洋子のデザイン理念
	日石サービスマンのユニフォーム	モダニズムの思潮
	デザイン	機能主義
	4年で一新された日石ユニフォーム	合理主義
	既製服のデザイン	量産への強い志向
	既製服を個性化する「ユニット」	ファッションにおける
	桑沢デザイン工房	「日本的なもの」
第4章	デザイン運動体としての	民芸の尋常美
	桑沢デザイン研究所	生活重視の思想
	啓蒙活動から服飾教育へ	
	多摩川洋裁学院の創立	
	桑沢デザイン教室開設	
	機関誌「KDニュース」	
	桑沢デザイン研究所創立	
	学科編成と教育目的	
	造形教育センターの設立	
	日本のグッドデザイン運動	
	国際デザイン協会の設立	
第5章	教育者としての活動	
	バウハウスシステムによる	



半透明樹脂に3色印刷された函（左）と本体（右）  
ブックデザインは桑沢デザイン研究所・東京造形大学で教鞭をとった勝井三雄氏による。